

社会科シラバス 高校3年

1. 学習の到達目標と評価の観点

| | 単位数 | 学科・学年・学級 | 使用教科書と補助教材 |
|---------------|---|----------|---|
| (科目) 日本史演習 | 3単位 | 第3学年 | 『WinningCOM. -PASS 日本史の整理と演習2025』とうほう(主要教材) 『共通テスト対策 トライアル日本史探究+歴史総合』浜島書店 『日本史探究』実教出版(教科書) 『新詳日本史』浜松書店(図説) |
| 学習の到達目標 | <ul style="list-style-type: none"> ・資料の読み取りを通して真理を追究していこうとする姿勢や、得られた知識・技能を実社会に役立てようとする意欲を養う。〔Science〕 ・世界全体を俯瞰するグローバルな視点と地域の問題を掘り下げて把握するローカルな視点を併せ持つ柔軟な思考力を養い、それに関する自分の考えや価値観を発信できるとともに、社会の中で自身に求められている役割を認識する。〔Global〕 ・探究心を持ち、物事を論理的にとらえ、現在世界各地で起きている問題を歴史的な視点から読み解き、よりよい解決策を導き出す。また、その解決策を実行するために、他者の意見を尊重しながら協働できる人間になる。〔Liberal Arts〕 | | |
| 評価の観点 | <p>授業に前向きに取り組み、知識を活用し、他者と協働しながら、その疑問を解決しようとする姿勢がある。＜主体性・多様性・協働性＞</p> <p>日本の歴史を学びながら、それぞれの出来事をくらべたり、複数地域のつながりや影響を探究し、自分の考えを発信することができる。項目をただ暗記するのではなく、「原因→経過→結果」という因果関係をつかむことで、社会を動かす躍動感を体感する力をつける。＜思考力・判断力・表現力＞</p> <p>諸課題の形成過程について考察したり、資料を読みとるために必要な知識・技能を身につけられている。＜知識・技能＞</p> | | |

【点数化が難しい課題については、観点別評価とする。】

- A：「十分満足できる」状況と判断されるもの
- B：「おおむね満足できる」状況と判断されるもの
- C：「努力を要する」状況と判断されるもの
- D：未提出，未実施

2. 学習内容及び評価方法

| 時期 | 単元 | 学習のねらい・到達目標 |
|----|-------------|------------------------|
| 1学 | 古代史、中世史の総復習 | ○古代、中世の流れを大まかに確認していく。 |
| | 近現代史の再確認 | ○近現代にかけての流れを理解し、説明できる。 |

| | | |
|--|--|---|
| <p>期中 間 ま で</p> | <p>歴史総合視点からの近現代史学習 ★スタディーサプリ 「ベーシックレベル日本史探究」 第1講 原始の日本列島 第2講 中央集権国家「日本」の成立 第3講 律令体制の展開と矛盾 第4講 律令体制の衰退 第5講 荘園公領制と武士 第6講 院政と平氏政権 第7講 武家政権の確立</p> | <p>○論述問題などに取り組み、思考力、表現力、判断力の養成を促す。</p> |
| <p>1 学 期 期 末 ま で</p> | <p>中世後期から近世史の総復習 近現代史の再確認 歴史総合視点からの近現代史学習 ★スタディーサプリ 「ベーシックレベル日本史探究」 第8講 全国的武家政権の確立と衰退 第9講 地方からの視点と日本の産業と文化の確立 第10講 織豊政権による統一 第11講 幕藩体制の確立と武断政治 第12講 幕政の安定と文治政治 第13講 幕藩体制の動揺と改革 第14講 幕藩体制の崩壊 第15講 開国と江戸幕府の滅亡</p> | <p>○近世の流れを大まかに確認していく。 ○近現代にかけての流れを理解し、説明できる。 ○論述問題などに取り組み、思考力、表現力、判断力の養成を促す。</p> |
| <p>2 学 期 中 間 ま で</p> | <p>日本近現代史 明治史 大正史 歴史総合分野の学習 (一部、江戸時代の復習も含む) ★スタディーサプリ 「ベーシックレベル日本史探究」 第16講 明治維新と立憲国家の成立 第17講 「脱亜入欧」の達成と帝国主義 第18講 近代産業と近代文化の発展</p> | <p>○問題演習を通して、既習範囲を復習する。 ○高校2年次に学習した明治史および大正史の流れを理解し、ポイントの確認を行っていく。 ○歴史総合の観点から、戦後史などを復習していく。</p> |
| <p>2 学 期 期 末 ま で</p> | <p>日本近現代史 大正史 昭和史 戦後史、歴史総合分野 近現代史積み残し部分の学習 古代、中世、近世史の復習 ★スタディーサプリ 「ベーシックレベル日本史探究」 第19講 戦争への道と敗戦 第20講 終戦後の日本 第21講 国際社会への復帰と高度成長 第22講 経済大国としての安定成長 第23講 現代の日本</p> | <p>○問題演習を通して、近現代史の整理を行い、戦後史学習についても触れていく。論述問題などに取り組み、思考力、表現力、判断力の養成を促す。 ○1学期に触れられなかった内容について確認していく。 ○古代、中世、近世史の問題演習を行いながら、要点整理をしていく。</p> |

| | |
|------------------|------------------|
| <p>評価の観点及び内容</p> | <p>評価方法（具体例）</p> |
|------------------|------------------|

| | |
|---|---------------------|
| 学習範囲を主体的に予習している。〈主体性〉 | 毎時間実施する小テスト |
| 設定された課題に対する自分の考えを、他者にも読み取れるように適切に説明することができる。〈思考力・判断力・表現力〉 | 定期考査 ロイロノートによる課題 |
| 歴史的な知識を身につけられている〈知識・技能〉 | 定期考査 毎時間実施する小テスト |

【成績評価の概要について】

(1)学期における評価の対象

- ①各学期に実施する定期考査（100点満点）
- ②授業冒頭に取り組むロイロ課題（ロイロゲーム機能のテスト）
- ③単元の確認のために取り組む論述ワーク（ロイロ提出箱に提出）
→平常点（授業内取り組み、提出物等）として概ね2割前後を評価材料とする。
- ④毎回の授業で実施する小テスト（この小テストがかなりのウエイトを占める）

☆以上の①～④すべての点数の総合計を100点満点に圧縮して評定を算出する。

★定期考査と各授業で実施するすべての小テストについて、欠席の場合は0点となる。ただし、テスト実施後に当該生徒に対しては担当教員がロイロノートを通じて、問題を送るので提出があれば、小テストの場合は採点した結果の半分を、定期考査の場合は参考点を算出（参考点は受験した他の考査素点も参考として算出する）して成績に反映する。ただし、公欠による欠席の場合はこの限りではない。欠席による未受験のテスト提出は2学期末まで待つので、当該学期での提出ができなかった場合でも、年度末までに提出ができれば学年評定には反映される。

(2)学期評定の算出方法

学期ごとに、上記(1)を総合して評価を行う。

一部、論述課題などについては、〔①文章展開／②条件設定／③文字表現／④表現力〕などの観点を設け、ルーブリック評価をしたものを点数化する。授業時間内の提出を基本とし、授業後の提出に関しては基礎点のみの加点とする。

(3)学年評定の算出方法

- ①定期考査
- ②ロイロによるゲーム機能テストへの参加
- ③授業単元確認のための論述課題
- ④毎授業ごとに実施する小テスト

→以上、各学期で実施したすべての素点を足したものを100点満点に換算して評定を算出する。未受験のものなど2学期末までに提出があれば素点に加味する。